

# 四隅突出型墳丘墓徹底解剖！

独自の発達を遂げた、出雲の王たちの墓



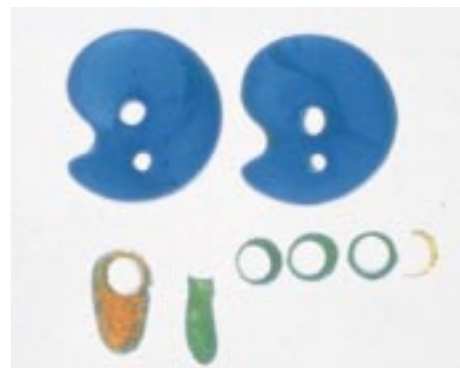
上空から見た四隅突出型墳丘墓。ヒトデのような形がよくわかる。  
(宮山4号墓：安来市西赤江町)



四隅突出型墳丘墓から出土した土器群  
(西谷3号墓出土：出雲市大津町)  
墓穴の上に並べられていた土器群で、全部で300個以上の土器が発見された。



墓穴を完全に掘り上げた状態  
(西谷3号墓：出雲市大津町)  
棺の底には真赤な朱が敷かれていた。



王妃の墓から出土した、ガラス製のアクセサリ  
(西谷3号墓出土：出雲市大津町)  
弥生時代に貴重品だったガラスは、現代の金やダイヤモンドより入手がむずかしかった。



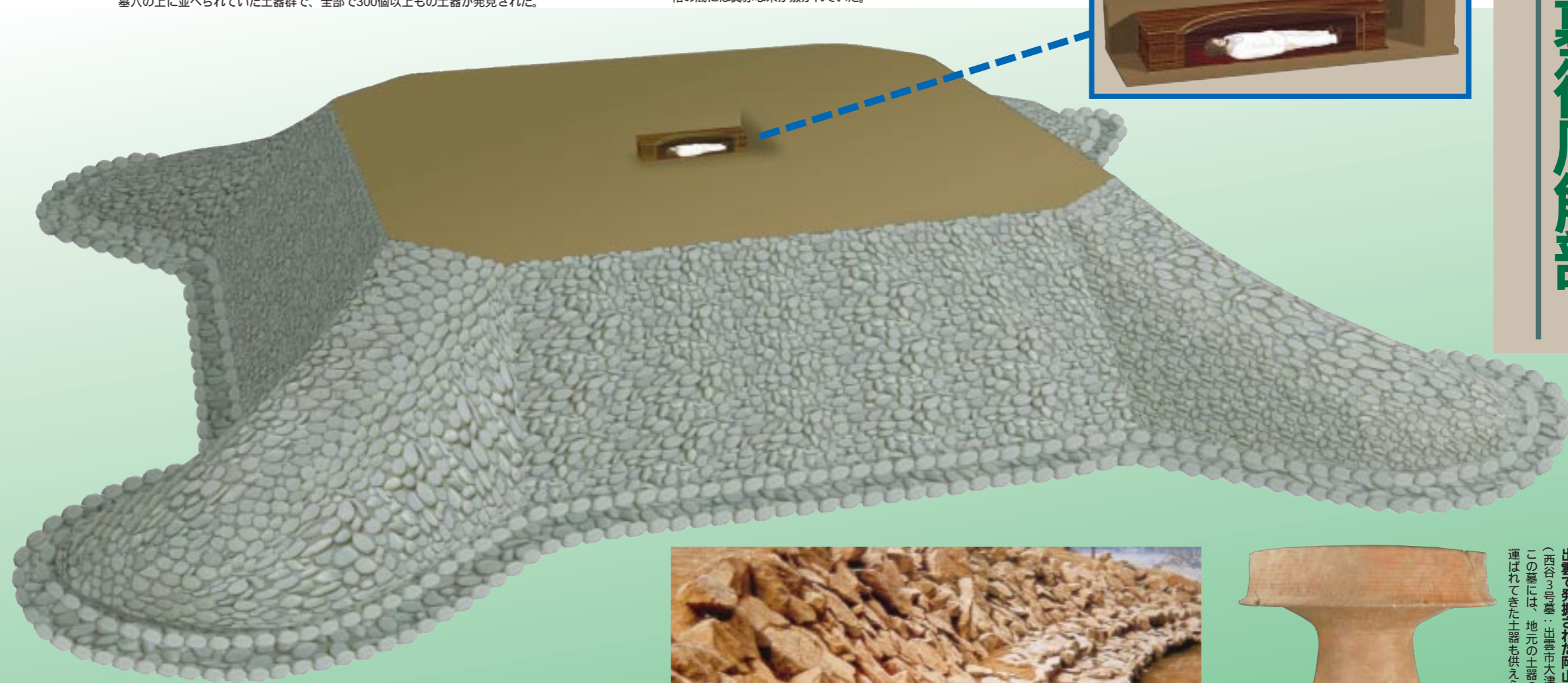
墓の上に置かれたナゾの石  
(西谷3号墓：出雲市大津町)  
死者の胸の真上にあたる位置に置かれており、神聖な顔料である水銀朱がついていることから、四隅突出型墳丘墓の上で行われた葬礼の祭りの中で、重要な意味を持つ石だったと考えられる。



四隅突出型墳丘墓の建物跡  
(西谷3号墓：出雲市大津町)  
墓穴のまわりで見つかった柱跡で、葬礼の祭りを行うための建物が建てられていたと考えられる。



四隅が巨大化した四隅突出型墳丘墓  
(宮山4号墓：安来市西赤江町)  
四隅の突出部が発達して、しゃもじ形になっている。



島根県でもっとも大きい四隅突出型墳丘墓  
(西谷9号墓：出雲市大津町)  
全長45m x 38m、高さ5mの規模を持つ。



小型の四隅突出型墳丘墓  
(間内越1号墓：松江市矢田町)  
全長わずか9m x 7mしかない小型の墓。



四隅突出型墳丘墓の貼石と列石(安養寺3号墓：安来市西赤江町)  
発掘された貼石(墳丘の斜面に貼られた石)と列石(墳丘のすそまわりに並べて立てられた石)の中では、もっとも整美な形で残っていた。



出雲で発掘された岡山産の土器  
(西谷3号墓：出雲市大津町)  
この墓には、地元の土器のほか岡山や北陸地方から運ばれてきた土器も供えられていた。